

㊦と㊧の間に挿入される可能性のある語句(節)には、以下のようなものがある。



それぞれの働きの可能性を整理してみよう。

まず基本的にこれらの文中での働きは、以下の2つのいずれかである。

- 1.形容詞的に㊦を説明(修飾)している。
- 2.副詞的に㊧(又は文全体)を修飾している。

では上記の語句(節)が、具体的にそのどちらの働きをする可能性があるのかを見てみよう。

①名詞(句)…形容詞的に㊦を修飾する。

㊦+名詞+㊧。となる場合、「名詞」は、㊦と同格で、「㊦=名詞」の関係になっている。「名詞」は㊦の「身分」等の説明であることが多い。

(ex) John — the only son of the Foreign Minister — was deeply interested in the international situation.

その外務大臣の一人息子のジョンは、国際情勢にとっても関心を持っていた

上の英文でも、the only son of the Foreign Minister(その外務大臣の一人息子)は、John の(身分の)説明(つまりJohn とイコール関係)になっている。

②形容詞(句)…⑤を修飾する。

例を挙げてみよう。

(ex) A person **kind to other people** is loved by those around him.

他人に親切な人間は、周りの人から愛されるものだ

上の英文の kind(形容詞)が導く句(kind ~ people)は、⑤(A person)を修飾している。

③副詞(句)…1.形容詞的に⑤を説明(修飾)している

2.⑦(又は文全体)を修飾する。

⑤を修飾している例を挙げてみよう。

會副詞は、基本的に名詞以外を修飾するものなのだが、以下のように副詞が直前の名詞(⑤)を修飾する例も、(数は少ないが)中にはあるのだ。

(ex) Many people **there** were astonished by his reaction.

そこにいた多くの人が彼の反応にビックリした

⑦を修飾している例を挙げてみよう。

(ex) The door **suddenly** opened. ドアが突然開いた

以下の英文では reasonably は文全体を修飾している。

(ex) You **reasonably** expect her to come.

彼女は来るものと君が考えるのはもっともなことだ

④不定詞(句)…1.形容詞的に⑤を説明(修飾)している

2.副詞的に⑦(又は文全体)を修飾している

⑤を修飾している例を挙げてみよう。

(ex) The first person **to set foot on the moon** was Neil Armstrong.

月面に足を踏み入れた最初の人間は、ニール・アームストロングだ

④(又は文全体)を修飾している例を挙げてみよう。

(ex) The people, **so as to see the parade better**, all stood up .  
人々は行進がもっとよく見られるように、全員立ち上がった

⑤分詞(句)…1.形容詞的に⑤を説明(修飾)している  
2.副詞的に④(又は文全体)を修飾している

⑤を修飾している例を挙げてみよう。

The man **waiting for an hour there** began to cry at last.  
そこで1時間待っていた男は、ついに泣き始めた

The train **just arrived at Platform 1** is from Los Angeles.  
ついさっき1番線に到着した列車はロス発です

④(又は文全体)を修飾している例を挙げてみよう。

This train, **starting at two**, arrives in London at nine.  
この列車は2時に出発し、9時にロンドンに着きます

Mr. Tani, **born in America**, is proficient in English.  
谷氏はアメリカで生まれたので英語がじょうずだ

The little girl, **with tears running down her cheeks**, called out to her mother.

ほおに涙を流しながら、その少女は母親に大声で呼びかけた

④(又は文全体)を修飾する分詞(句)とは、分詞構文のことなのだが、その場合、上例のようにカンマで区切られることが多い。

つまり

⑤ 分詞句 ④~

という場合には、その分詞句は⑤を修飾し、

⑤ , 分詞句 , ④~      ⚠分詞句がカンマで区切られている!

という場合には、その分詞句は(分詞構文として)④(又は文全体)を修飾していると見ればよい。

會分詞構文の場合、「時(～のとき)」「理由(～ので)」「条件(もし～なら)」「譲歩(～けれど、～にもかかわらず)」「同時(～しながら)」「連続(そして～)」のいずれかで訳すといい。

実際これは分詞構文に限ったルールではない。つまり、

㊦ , ~~~~~ , ㊧~

と、(㊦と㊧の間の)挿入部分がカンマとカンマ(あるいはダッシュとダッシュ等)で区切られていた場合、たいていはその挿入部分は㊧(又は文全体)を修飾していると見ていい。例外は挿入部分が名詞の場合くらい(名詞の場合は同格として㊦を説明・修飾していることが多い。下の英文でも、our English teacher は㊦(Mr. Brown)と同格になっている)。

(ex) Mr. Brown, our English teacher, is my favorite.

うちの英語の先生のブラウン先生はボクのお気に入りです

⑥前置詞句…1.形容詞的に㊦を説明(修飾)している

2.副詞的に㊧(又は文全体)を修飾している

㊦を修飾している例を挙げてみよう。

(ex) A girl with blue eyes approached me.

青い目をした女の子が私の方に近づいてきた

㊧を修飾している例を挙げてみよう。

(ex) Nancy , from across the street, called to me.

ナンシーは、通りの向こうから私に声をかけてきた

⑦that節…形容詞的に㊦を説明(修飾)している

㊦ that節 ㊧~ となる場合、that節は「関係代名詞節」「同格節」両方の可能性があるが、どちらにしても㊦を説明(修飾)していると見ていい。特に「同格節」の場合は、「㊦=that節」の関係である。例を挙げてみよう。

(ex) The news that he won the game surprised us.

彼がその試合に勝ったという知らせは私たちを驚かせた

上例の that節は同格節である。「㊟(The news)=that節」の関係になっている。「同格節」を導く場合、「～という㊟」と和訳をまとめるといい。

(ex) The dress that my mother bought for me suits me perfectly.  
母が私のために買ったドレスは私にぴったり合う

上例の that節は関係代名詞節である。

㊟「同格節」と「関係代名詞節」の見極め方は「同格節」を導く that は接続詞なので直後に「完全な文」を導く。それに対し「関係代名詞節」を導く that は直後に「不完全な文」を導く。上例でも that の後ろには bought の目的語が欠けた「不完全な文」がきている。

### ⑧疑問詞節…形容詞的に㊟を説明(修飾)している

これは、㊟が question のような名詞で、疑問詞節がその㊟と同格となる場合に起こりうる。「㊟=疑問詞節」の関係になる。「同格節」を導く場合、「～という㊟」と和訳をまとめるといい。

(ex) The question who we should elect chairman bothered him.  
誰を議長に選ぶかという問題が彼を悩ませた

### ⑨whether節…1.形容詞的に㊟を説明(修飾)している 2.副詞的に㊟(又は文全体)を修飾している

㊟を説明(修飾)するのは、whether節が同格節となる場合である。その場合、「㊟=whether節」の関係になる。意味は「～かどうか」と訳す。全体は「～かどうかという㊟」と和訳をまとめるといい。

(ex) The question whether she knew the secret remains.  
彼女がその秘密を知っていたかどうかという疑問が(依然として)残る

whether節が副詞的に㊟(又は文全体)を修飾する場合、「～であろうとなかろうと」と訳す。

(ex) The round trip, whether on foot or by car, would be dangerous.  
その一周旅行は徒歩であれ車であれ危険なものであろう

whether節が(㊸と㊹の間で)副詞節となる場合は、上例のようにたいていカンマによって区切られる。

⑩関係詞節…形容詞的に㊸を説明(修飾)している

例を挙げてみよう。

(ex) Babies **who are allergic to milk** shouldn't be given it.

牛乳アレルギーの赤ん坊に牛乳を飲ませてはいけない